

芦東山にかかわる略年譜

西暦	和暦	年齢	主な出来ごと
1696	元禄 9	1	11月23日、磐井郡東山洪民に誕生。名前は岩淵善之助。
1702	15	7	正法寺（奥州市）定山良光和尚の弟子となる。勝之助と名を変える。
1703	16	8	伊達吉村が仙台藩五代藩主となる。
1704	宝永 元	9	桃井素忠から教えを受ける。幸七郎と名を変える。
1708	5	13	9月、母と仙台に本を買いに行き、つつじが岡で大和屋星久四郎に会う。
1710	7	15	6月より仙台に出て大和屋星久四郎の世話になり、吉田儒軒に学ぶ。 11月仙台藩の学者田辺希賢の門人となる。12月藩生となり、刀を差すことが許される。 江志知辰から算学・天文学を学ぶ。
1711	正徳 元	16	7月、洪民に帰り村の人たちに講義をする。母に本を渡す。
1714	4	19	3月、孝七郎と名をかえ、番外侍となる。9月、藩主に講義をする。
1715	5	20	7月、洪民に帰り、桃井素忠や祖父と会う。
1716	享保 元	21	勉強のため京都に行き桑名松雲宅に世話になる。浅井琳庵の門人となる。
1717	2	22	琳庵が亡くなり、三宅尚斎の門人となる。
1718	3	23	10月、高屋徹斎に国学を学ぶ。
1719	4	24	京都から仙台に帰る。藩主に講義をする。11月祖父が死去（74歳）
1721	6	26	3月、江戸へ上り、室鳩巢の門人となる。
1722	7	27	「七か条の上言」を書く。
1723	8	28	2月、米谷（宮城県登米市）飯塚保安の娘婿と結婚する。
1724	9	29	8月、母かめが亡くなる。（59歳）
1727	12	32	8月11日、名字を岩淵から芦に、名を徳林と改める。娘婿が生まれる。
1736	元文 元	41	11月、仙台藩初の学問所ができる。
1737	2	42	講堂座列に関する願いを出す。
1738	3	43	6月11日、評定所で加美郡宮崎（宮城県加美郡加美町）石母田家に「預け」を言い渡される。 冬より『無刑録』の原稿を書き始める。
1743	寛保 3	48	7月、父一桂が亡くなる。（78歳）
1747	延享 4	52	飯塚保安赦免願（罪を許してほしいという願い）を出す。
1748	寛延 元	53	自分で赦免願いを出す。
1750	3	55	仙台市の龍宝寺の図書貸出しが許可される。
1754	宝暦 4	59	「二十二か条の上言」を書く。

1755	5	60	『無刑録』18巻完成。自分で赦免願い出す。娘も赦免願いを出す。
1756	6	61	9月、娘が赦免願いを出す。娘婿が畑中多仲と結婚する。
1757	7	62	2月29日、石母田家が高清水（栗原市）に移るため、東山も引っ越す。
1758	8	63	5月、妻が赦免願いを出す。
1761	11	66	3月21日「預け」許される。（伊達重村結婚のため）4月に渋民に帰る。
1763	13	68	3月、仙台訪問。7月1日、東民と名を変える。7月、建部清庵に会う。 8月、一関藩主田村村隆を訪ねる。
1766	明和 3	71	8月、本の校正のため江戸へ行く願いを出す。許可されなかった。
1769	6	74	11月16日、娘婿亡くなる。（33歳）
1770	7	75	6月、本の校正のため江戸へ行く願いを出す。許可されなかった。
1776	安永 5	81	6月2日、昼過ぎ亡くなる。
1877	明治 10		元老院から国費で『無刑録』18巻が出版される。
1915	大正 4		東山の「上言」がのった『日本経済叢書巻8・巻26』出版される。
1927	昭和 2		佐伯復堂の『譯註無刑録』3巻が出版される。
1974	昭和 49		
~	~		千葉寛二郎・小野寺東一郎訳註『無刑録訳註』18巻が出版される。
2005	平成 17		
2007	平成 19		10月1日、一関市が建設した「芦東山記念館」開館。
2009	21		4月26日、芦東山顕彰碑（東京大東会寄贈）が建ち、除幕式を行う。

◎年齢は「数え年」で表しています。

（「数え年」とは、生まれた年を1歳とし、以後正月になると1歳を加えて数える年齢）